

幸を探しているあなたに

人類の一番大きな災い、**霊的飢餓**

人類最悪の災いリスト 紀元前から現在まで、人類の記録に残っている最悪の災いリストを見れば、興味深い点を発見することができます。それは、歴史上、最も多くの人類の命を奪った災いは、飢餓(飢え)であるという点です。伝染病、地震、火山爆発、津波、病気などによって命を落とした犠牲者の数をすべて

合わせても、飢え死にした人々の数の半分にも満たないと言われています。全世界的に、人類の最も大きい敵は、昔も今も食糧不足です。

実例として、アメリカで集計した数値を見ると1990年代、北朝鮮では飢餓で350万人が命を落とし、20世紀最悪の災いに選ばれました。一方、アメリカの福音主義者であるリチャード・ランド博士は、現代教会の災いは同性愛とイスラムのジハードだと指摘しながら、イスラムのジハードはすでにアメリカとアメリカの文明、キリスト教に対する戦争を宣言したということです。タリバンは、貧困に疲れた10代の青少年をかき集めて、自殺爆弾攻撃テロの訓練をさせ、乳と蜜が流れる川と天国で自分たちを待つ女性の絵を見せるそうです。予言者と一緒にパーティーを楽しみながら生きる天国の生活を教え込み、洗脳させるということです。最近、日本では最も好感が持てる女優の大原麗子の寂しくしてみじめな死をきっかけに、富裕層と一人暮らしをしている人の中で増えている孤独死が社会問題として台頭しています。

最も大きい災いの開始は、霊的飢餓 なぜこのように人間には絶え間なく災いが襲ってくるのでしょうか。パスカルは「パンセ」で「人間は霊的な存在だ。それで、人の心の中には神様だけが満たせる空間がある」と話しました。世の中は私たちの目に見える人生がすべてだと言いますが、何か満たすことができないむなしさは、私たちに肉体の人生がすべてではないことを語ってくれます。魚は水の中に生きなければならず、赤ん坊はお母さんとともにいるとき

に最も幸せであるように、人間は神様とともにいるとき、最も幸せである存在として創造されたことを聖書は語っています。ところが、サタンの策略にだまされて、神様を離れた人間は、暗やみと混とんと空虚という運命のくびきに縛られるようになりました。この時から人間には、のろいと災いがやってきはじめてのです。奴隷の家で生まれた子どもたちは、みんな奴隷になるように、この事件以後に生まれるすべての人は、神様を離れた状態で生まれて、親がいない子どものように、不幸な生活を送るようになりました。自分も知らない間に、罪人というくびきを負い、悪魔の子どもになって、人生を生きるほど、どんどん不安と恐れが訪ねてくるようになりました。それで、自然に偶像崇拜をするようになったのです。ところが、心のむなしさは、より一層激しくなって、うつ病といろいろな精神問題、不眠症や人には話せない幻聴と幻想の苦しみによって、日常生活まで正しくできない人がますます多くなっています。世の中には、あらゆる病気が乱舞して、結局、人間は死ぬようになって、地獄という永遠な苦しみと刑罰の中に陥るしかなくなりました。さらに、私が持っていた良い点と悪い点など、霊的な問題と偶像崇拜の呪いが、驚くことに子どもにすべて伝わって、不幸の相続がずっと反復されるようになります。

神様がこの問題を解決する答えを送ってくださいました。 神様は自ら人間を救うことを約束してくださいました。キリストをこの世に送って、十字架で死んで復活されることによって、人間の敵であるサタンの権威を打ちこわし、人間のすべての罪と呪いを解決して、神様に会えるように道を開いてくださいました。この方がまさにイエス様です。したがって、だれでもキリストとして来られたイエス様を信じて受け入れれば、直ちに神様の子どもになります。いのちの御霊の原理が、あなたを完全に罪と死の原理から解放するようになります。呪い、災いと関係なく、神様が与えられる真の人生の幸せを味わうようになります。これが本当のあなたの人生の姿ではないでしょうか。

重職者伝道企画(1) 理解と疎通

理解の語源 ある対象に含まれた内的な意味の本質を把握することを理解と言います。玉の変形である「王」と田(区切られて整理された田んぼ) + 「土(住居や場所)」という「里」が合わさった「理」の本来の意味は「玉を整える」、玉は一定の方向にだけ割れるので、整える方法もまた一定でなければならなかったので、「道理」「治める」などの意味も追加されました。角と、刃の刀と、牛を合わせた解という字は、刃物で牛の角を解体するという意味を描いたものです。「understand」とは自分が悟った道理や能力というより、対象の実体にフォーカスを合わせます。この言葉の語源は「下に」を意味する「under」と「立つ」という意味の「standan」が合わさった中世英語「understandan」です。第2次世界大戦の終わりごろの1944年6月、アメリカ国務部が当時のコロンビア大の人類学教授だったベネディクトに日本人と日本文化に関する研究を委嘱したのも「understand」でした。そのようにしてできた本が「菊と刀」(The Chrysanthemum and the Sword)であり、それを土台にして戦後、日本人の二重性を理解して、社会を大きな誤りなしに收拾したということは、よく知られている話です。

重職者伝道企画の開始 今から少しずつ教会内の機関に対する分析、長老以外の他の重職者(按手執事、勸士)に対する分析、教会の信徒に対する分析、特に新しい家族に対する分析をしなければなりません。教会の信徒の私的なことを知るということではなく、教会の信徒に対する十分な理解をしなければならないということです。初代教会は、教会の信徒の祈りの課題をすべて知っていました。重職者が教会の信徒の祈りの課題を正確に知って分かち合うことが、どれくらい重要なのか分からなければなりません。そして、使命が通じる交わりが必要です。パウロは「助ける人、同労者、家主、同国人、労苦する者、愛する者、認められる者」と個人にニックネームを付けるほど、使命が互いに通じました。そして、フォーラムを分かちあうのです。皆さんが、毎日毎日考えてみなければなりません。「神様が私に今週にはどんなみことばをくださったのか。私に特別に恵みを与えるみことばは何か。私は今週にどんな答えを受けたのか。伝道に対しては、どんなことが起きたのか」これを捜し出さなければならず、なければならず、作らなければなりません。これが真の Oneness のフォーラムで、重職者伝道企画の開始です。健康な血が流れれば、全身は生き返るようになります。

神様の子どもになる受け入れの祈り
愛の神様、私は罪人です。イエス様が十字架で死んで、復活されることによって、私のすべての問題を解決してくださったキリストであることを信じます。今、私の心の扉を開いて、イエス様を私の救い主として受け入れます。今、私の心の中に来てくださって、私の主人になって、私を導いてください。これから、神様の子どもになった祝福を味わいながら生きるようにさせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもへの五つの確信

- 1 **救いの確信**：イエス・キリストを信じて受け入れたあなたは、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ 8:15-16, Iヨハネ 5:10-13)
- 2 **祈り答えの確信**：神様の子どもはイエス・キリストのお名前でも何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ 15:7)
- 3 **導きの確信**：神様は聖霊でああなたの中におられ、あなたのすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ 14:26-27, 箴言 3:5-6)
- 4 **赦しの確信**：あなたのすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さい(ヨハネ 1:9, ローマ 3:24)
- 5 **勝利の確信**：救われたあなたは、世の中に勝たれたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます(ローマ 8:31-37, Iヨハネ 5:4)

神様の子どもへの毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに、福音を邪魔して困らせるすべてのサタン勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

そして、私の生活を通して、イエス様がキリストであるということがあかしされ、私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

真の弟子の3つの力

「私のような足りない者が、どのように救いの祝福を受けたのですか」考えるほど、驚くべきことです。私たちよりはるかに立派な人も、福音と伝道を知らずにいるのに、神様は伝道者の席に座らせてくださったことを見ると、世界福音化のために私たちを選んで呼んでくださった事実に感謝が自然に出てきます。これが恵みで、信仰生活の新しい出発点です。この奥義を知れば、毎日朝に目を開くやいなや「今日も神様が栄光を受けてください!」という祈りが自分も知らないうちに出てくるようになります。この恵みで2010年を出発すれば良いのです。

まず伝道の目を開こう 伝道とは何でしょうか 神様が私とともにおられることを他の人に見せることで、私にいのちがあることを、神様の力があることをあかしすることです。伝道の目が開いたということは、福音の目が開いたということで、福音の必要な現場に目が開いたということで、祈りも正しくするということを含んでいます。それだけではなく、霊的な奥義を知っているということで、未来まで知っていることで、歴史と教会史が何かを知っているということです。それで、今から「神様は伝道を通して世界福音化をされると言われましたが、私は今、伝道と何の関係があるのですか」という悩みを24時間、一生すれば良いのです。この悩みを続けているなら、出会いの祝福が与えられます。出会いの中で正しく目を開けなければなりません。その中に弟子がいるためです。そして、訓練を通してこの弟子を確立させなければなりません。弟子が確立されれば、成功の門が開かれて、自然に答えが来ることを体験するようになります。この証拠を持って、現場に出て行けば良いのです。これを味わうことを伝道と言います。神様は確かに伝道者を通して、教会史、世界史を動かしておられます。個人の幸せ、教会生活の幸せ、私がすること(事業、職業、学業)が、伝道の祝福の中にあるならば、それがまさに真の成功です。

幕屋の庭を作って契約の箱について行きなさい 神様が荒野に行くイスラエルの民に幕屋と幕屋の庭を作りなさいとおっしゃる大きい理由3つは何でしょうか。至聖所の中にある契約の箱が動く所ごとに神様のみわざが起きました。契約の箱について行く時、ヨルダン川が分かれて、紅海が分かれて、エリコが崩れて、太陽と月が止まる奇跡が起こりました。幕屋と幕屋の庭を作れとおっしゃった鍵が、まさに「契約の箱」です。そして、教会は、これから社会と地域を生かして文化に影響を与えるほど先んじて、レムナント(次世代)を生かし、世界の異邦人たちを生かすほど宣教の答え受けなさいということです。そして、幕屋の庭は、未来に建てられる神殿に対する模型として、各国の人々が集まって礼拝をささげるところです。各国の人材、後進国のレムナントが希望を持って韓国に来て、礼拝をささげることができる教会を作らなければなりません。福音がある教会、いのちがある教会、初代教会に起きたその働きを持って力を受ける教会、全世界の伝道者(巡礼者)が集まる教会を作りなさいということです。

真の弟子が受けなければならない3つの力 真の弟子は、運動で肉体的な力と集中力を受けなければなりません。そして、読書を通して自分が知らない世界に自分が行かずに多くの人に会うという考えで、本を読まなければなりません。精神的に感動を受けて、福音的に再解釈できる読書の力を受けなければなりません。そして、一番重要な祈りに対する力を持っていなければなりません。祈りは恵みと感謝がなければなりません。この三つ力を受ければ伝道が見えるようになります。この三つの力がたましいに入っていけば、神様がくださる力が出てくるようになります。この祝福を今日から感謝を通して、小さい実践を通して、更新を通して味わってください。皆さんは、この時代の霊的な指導者で、最高の祝福の隊列に立った主役です。

説教_柳光洙牧師、整理_チャ・ドンホ牧師

毎日毎日の森の泉

18日(月)奴隷に関する定め(出21:1~11)

奴隷になったイスラエルの民を通してくださる3つの教訓があります。福音をのがして伝道と宣教を悟ることができない過去を、今、刈り入れるようになるのです。霊的事実を悟ることができなくて契約をのがした今日が、また私の未来になることがあります。そして、キリストが聖書を正しく理解する鍵です。

19日(火)神様のあわれみ(ローマ11:31~36)

神様が私たちを死ぬしかない未信者状態から完全に救い出されたことをあわれみと言います。私たちがまだ罪人であった時に、神様が救いのあわれみを与えてくださったのです。そして、神様はいつも変わらず神様の子どもにあわれみを与えることを願っておられます。

20日(水)みことばの成就(使徒16:16~18)

神様が初代教会の弟子を大きく用いられた理由は、自分が受けた神様のみことばが成就するのを正確に握ったためです。私たちは、みことばの中で祈りの課題を見つけて、そのみことばが今、自分にどのように成就しているかを知って、そのみことば成就について行く時、神様の働きを見るようになります。

21日(木)一人でいる時(使徒13:1~12)

初代教会が伝道運動に成功できたことは、極限の状況の中でも一人でいる時、聖霊に満たされる奥義、すなわち完全信仰を持って、私の家が弟子が集まる伝道運動の中心になって、私がいる現場で伝道運動の祝福を味わったためです。

22日(金)聖霊の導き(使徒11:25~26)

私たちが完全勝利して出会いの祝福を味わう最も大きな鍵は、聖霊の導きを受けることです。正しい聖霊の導きは、正しい福音運動をする時、パウロのように聖霊の導きを受けるためにもがく時、伝道する人とともに対話しながら伝道現場を通ってみる時、重要な門を見るようになります。

23日(土)自分の中にある別の自分

(使徒19:8~20)

表面の姿でない内面の隠された自分を発見する時、正しい癒しが始まって、正しい伝道もすることが出来ます。自分も知らないうちに長い間、持っている深い傷が福音で癒される時、サタンの働きは崩れるようになります。それで、福音を味わう定刻・常時・深い祈りが私たちに必ず必要です

週間メッセージ

産業宣教：重職者伝道企画(2)

- 牧会者、教役者の理解

(使6:2~4)

伝道学：社会(学校)生活をどのようにしなければなりませんか

(サムエル16:13、23)

核心訓練：足の不自由な者が歩き出す一年(使14:8~18)

聖日1部：幕屋の庭(出27:9~19)

聖日2部：パウロのローマ訪問計画と私たちの伝道計画

(ローマ15:22~33)

庚寅年を 生きる知恵



イラスト_ユン・スルギ

2010年である今年、庚寅年で檀紀4343年、佛紀2554年（平成22年）だ。庚寅年は、六十甲子の二十七番目にあたり、十二支では三番目にあたり、虎年だと言う。虎は、神話の中の使節（青龍、白虎、朱雀、玄武）の中で唯一の実際に存在する動物だ。

昔から虎年に生まれた人の性格は男女ともにみんなせっかちで活発で、意志の強い性質で、負けず嫌いで、義侠心が強く、他人を助けようと思えば水も火も辞さずに助けるが、とても自分の力を頼るので失敗する場合もあり、大部分が両親兄弟からの財産はなくて、自分の力で暮らしていく人が多いが、食の祝福はある人なのだが、特に今年は虎の中でも白虎、すなわち白虎の年だ。それは庚寅年の庚が色では白に該当するためだ。そのためか、新年に入って白い雪が全地をひっくり返して、虎のような厳しい寒さを感じさせる。

人々は、今日の時間を生きながら昨日を惜しんで明日を期待する。時間が流れれば、未来は自然に私たちの足の前に来るのに、なぜ、これからの事をあらかじめ知りたがるのだろうか。もちろん、未来をあらかじめ知って備える予防次元の人生は幸いなわけだが。

人間のこういう心理を巧妙に見抜いて、陰陽の原理に従って統計的な学問として発展させたのが易学だ。これを活用して、人生の運命体系をもてあそんで支配しているのは占い師たちだ。もちろん、学習で知っている人々もいるが、神懸かりの霊媒師が悪霊に導かれてこうしたことを行う。過去の経験を通して自ら恐れを学習した人生の問題を、霊的知識を通して部分的に知っているサタンが、人生の苦しみを思いきり活用するのだ。心を治めて平静さを維持しなさいという宗教指導者の名言は、実際には大き

い霊的実体によって、自分を支配させることなので、小さいごろつきの攻撃をなくす保護膜であるだけのことだ。普通の人たちには理解することは難しい苦しみは彼らにだけにあるのだが、彼らはそれを修養という言葉で隠しているだけだ。

先代の知識人である高尚な人たちも、霊媒師は世をあざむいて人を惑わすことだと迫害したが、実際には先祖供養と国家的なお祓い通して、彼らを存続させるようになった。運命、運勢の60個の枠組みの中で宇宙の原理をおいて個人の人生を調整しながら、肯定と否定の原理を調和させるのがまさに占いだ。

空から休むことなく降り積る大雪で、道が閉ざされて生活に困難を与えている、その雪の結晶体も同じ形がないというのに、人間の姿がその小さい顔の広さでも全く同じでなく多様なのに、どのように、いくつかの用例で人間を判断して、未来の吉凶を定められるのかということだ。それでも人々は、自分を支えてきた意志で、確かに今年も暦の占いを見て、新年の運勢を占う。これは明らかに道に迷ったので、道を探す苦しいことであるから、本当に完全な道であるキリストを通して2010年を生きる人生の知恵を得なければならないと思う。

チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

*相談したい方はこちらまでどうぞ